めいろうこどもえん　６月園だより

２０１９年度 年主題　〈ことばに満たされて～ひびきあう～〉

0･1･2歳児６月主題　「動きだす」

月のねがい

◎さんびかや子守歌を心地よくきく(0) ◎優しいことばかけの中、安心して過ごす(0) ◎周りのものや人に興味をもち、動き出す(0)
◎保育者のさんびや祈りのことばに心を合わせようとする(1.2)
◎わらべ歌や手遊びを通してことばのリズムを楽しむ(1.2)
◎主張やこだわりを認めてもらいながら生活する(1.2)
◎わらべ歌や手遊びを通してことばのリズムを楽しむ(1.2)

3･4･5歳児６月主題　「関わり合う」

月のねがい

◎神さまが創られた世界を知る
◎砂・泥・水に触れて遊ぶ中で心地よさを味わう
◎自分でしたいことが増え、楽しさを感じるとともに葛藤も味わう
◎絵本やお話を通して、豊かなことばに出会う

今月の聖句

「光は　正しいもののために　まかれている」

詩篇97：11

「ひかりはただしい者のためにまかれている。」詩篇97：11　：協会訳
「光は、神様を敬う者のために蒔かれます。」リビングバイブル訳

「光」。それは地球上の全ての被造物に恵みもたらす神のプレゼントです。
1、光は人を導く働きをします。光があるから人も動物も行動できます。
2、光は生産します。同化作用によって動物や人間に必要な糧をもたらします。
3、光は地球を暖めます。人類を始め、全ての生物が生存できる環境を与えます。
4、光は人を導きます。

以上、光の特性を列挙しましたが、1～3は万人にお与えられる公平な恵み。4は求める者に与えられる特別な種です。神はひとの心に諸特の種を植えつけて、収穫されます。この種は人を愛する心、平和を愛する心、死に打ち勝つ心を与えます。寛容、柔和、自制の心を与えます。4番目の役目こそが人間だけけが共有する宝です。これは無関心では得られません。意識的に求める者に与えられます。
「求めよ、さらば与えられん。探せ、さらば見い出さん」です。

６月の行事予定

５日（水）	**弁当日**、歯科検診(13:00～
１５日（土）	家族の日参観、弁当日
２０日（木）	**弁当日**
２２日（土）	もも組誕生会(4~6月生)
２６日（水）	6月誕生会

７月の行事予定

３日（水）	海あそび(4.5歳児)･弁当日
４日（木）	海あそび(2.3歳児)
５日（金）	七夕事業所訪問
６日（土）	夏祭り、弁当日（2.3号）
13･14日	お泊まり保育（年長児）※予備日(20・21)
１７日（水）	７月誕生会
１９日（金）	１学期終園式(1号:午前保育)

きゅうしょくのせんせい

きゅうしょくの
おだかせんせい
ほいくえん
やめちゃうんだって
けっこんして
だんなさまに
おいしいの
つくってあげるんだって
だんなさまが
ほいくえんに
たべにきてくれれば
いいのにね

望月栄里（６歳）

せっしゃ・・忍者なのじゃ

「拙者、姓はくろとび　名はさすけ。生まれは葛飾柴又伊賀の国じゃ。拙者の好物はおにぎり。特に梅干しのにぎりがすきじゃ。だが、西洋の飯にかける黄色い汁はどうも苦手じゃ。

拙者の仕事は忍者じゃ。誰にも言うではない。毎日目には見えぬ早さで飛んだり跳ねたりままごとしたり･･･。一つ言い忘れたが、「じゃ」は忍者の言葉で「です」じゃ。実は拙者は追われておる。こんなところで拙者の紹介をしている場合じゃないのじゃ。」

実は、園にこんな巻物が現れました。かくれんぼ中のすみれ組が見つけて大騒ぎに。開けてみると、巻物は真っさらで何も書いてありません。ふと、こすもす組が保育の中ではじき絵をしたことを思い出しました。試しにやってみると字が浮き上がり、上記の文字が出てきたのです。 文章の中でわからない言葉があると、忍者辞典(普通の分厚い国語辞典)で調べ、そこでさらに盛り上がった子どもたちでした。その後、その分厚い辞書を本棚に置いてみると、自由遊びの中で一生懸命読んでいる姿が･･･。辞書を持ち歩いて遊ぶ姿も見られ、とてもかわいかったです。

今年のテーマは、「忍者」！忍者の力を借りて、その世界に子どもたちを誘い込み、1年を通して楽しめたらと思っています。

さて、この巻物の最後に追われておる･･と謎の言葉がありました。これからどんな展開が待っているか？お子さんから時々耳にするかと思いますので、その時はよくお話を聞いてくださいね。一緒にワクワクしながら楽しんでもらえたらと思います。

森山

自律ある育ち

今年もあっという間に梅雨に突入です。先日の屋久島の大雨には驚かされましたが、例年の如く、暑さにもまた注意が必要なようです。地を潤す恵みの雨も長く続くとウンザリですが、園では雨もまたお友だち。水たまりや葉っぱの滴だけで、わくわくした時間を過ごせます。少しずつ園生活に慣れてきた子どもたちに、神様からいただいた生命の輝きが溢れてきます。

またも凄惨な事件が起こってしまいました。あまりにも身勝手で、刹那的な道ずれの凶行にみえます。なぜ無辜の子どもと若い父親が犠牲にならなければならなかったのか、怒りを隠せません。自分の不幸を社会への復讐によって清算したとすれば、理不尽な思いが募るばかりです。唯々、残された家族の方々に大いなる慰めを願うだけです。

フランスの小さな村での逸話です。小さなドブ川の流れが両側の土手をえぐって崖を作り、子どもが落ちてケガをしました。日本ならば当然、すぐに苦情が殺到し、行政の責任とやらで、住民が何かをするということはないのが普通でしょう。ところが、この村の人たちは、その土手を毎日使うのは役人ではなく、自分たちの子どもなのだから、まず手を打つべき主体は自分たちであると考えました。木箱をばらして柵を作り、大きな石を引きずって崖っぷちに置き、子どもたちに流れのあることをよく見せたそうです。そこまでして落ちてケガをするならそれは自分の責任であり、人生には危険がつきものであるとも教えました。さて私たちの社会はどうでしょう。道で転べば道路管理者が悪い、成績が伸びないのは学校が悪い、景気が悪ければ政治が悪い、給料が上がらないのは経営者が悪い、･･･。都合の悪いことは自分以外の誰かのせいで、責任や賠償を請求すべきだという風潮ではないでしょうか。そこに子どもたちの幸福な未来はあるのか、よく考えなければなりません。

さて、子どもたちはずいぶん園生活にも慣れてきました。朝の礼拝や体操にも落ち着きが感じられます。それぞれに集団の中での自分というものにも何かを感じてきているようです。日々の経験から得る「驚き」や「気づき」が興味を広げていきます。「先生、見て！来て！」と、自分の存在を認めて欲しいと願う気持ちこそ、自律ある育ちの原動力ではないでしょうか。

ここに来て、朝夕の寒暖の差もあり、体調を崩す子どもたちも多く見られます。また、気候的には様々な感染症に罹りやすくなります。どうぞ早寝・早起き・朝ごはんで元気に登園できますようご協力お願いいたします。

園　長

子どもと一緒に遊ぼう！Ⅱ　“吹く遊び”

乳児期から幼児期にかけてかわいらしい発声や喃語、そして意味ある言葉が増えていくことは、ご両親を含め養育に携わる私たちにとっても大変嬉しく、愛おしさが増す大事な成長の一つです。子どもにとっても、発声することによって養育者が反応してくれることは大きな喜びになりますし、更なる発声意欲につながっていきます。発声・発語のための機能の発達には、お父さんお母さんの語りかけ（言葉のシャワー）が何より大事ですが、その他にもほっぺ等お口周辺の筋肉の発達と舌の筋肉の発達、そして呼吸をコントロールする力も大事な要素になります。そこで今回はこれらの発達を促す“吹く遊び”をご紹介します。

①ラッパ…乳幼児用玩具に必ず入っているアイテムです。ラッパは赤ちゃんの産声と同じ「ラ」の音色を奏でるそうです。息をはいても吸っても音が出るので、自分がしていること（息をはく）の成功感も子どもたちは　体験できています。
②風車…たくさん息を吹いたら、吸う息の量も増えます。深呼吸の練習にもなり呼吸筋が強化されていきます。。
③シャボン玉・巻笛・パイプ吹きボール…ゆっくり吐いたら大きいシャボン玉ができること、巻笛　を息をコントロールしながらゆっくり伸び縮みさせること、パイプ吹きボールは強すぎず弱すぎずなど、吐く息を意識的にコントロールさせることで口周辺の筋力調整もできていきます。

④ハモニカ…1歳6か月前後から楽しめます。息を吸って、はいて、様々な音色を楽しむことができ、自分の呼吸が音色に変化していく楽しさを体験できます。呼吸のコントロール力がついて、発語意欲も高まります。
このように、吹く遊びも楽しいものです。
子どもの前髪に、優しく息を吹きかけてあげると子どもはとっても喜びます。神さまが人間を創造するときに使った方法に似て、生命力を与える素敵な交わりです。“吹く遊び”簡単なことから始めてみましょう。

木口屋恵子